

みちくさ いたずら こどものじかん

新山 裕之



たいしよ

大暑（22日）… 例年ならば梅雨が明け夏休みを迎える季節ですが…

文字通り、暑さが最も厳しい季節となりましたが、今年は、この時期も保育をすることになりました。感染予防と並行して、熱中症対策にも配慮が必要です。友達との距離が近い場面でのマスクは欠かせませんが、園庭で友達と距離が取れる場面では適宜マスクを外したり、こまめな水分補給をしたりしていきます。ご家庭では十分な睡眠と食事、毎朝の検温と健康カードへの記録などを確実にお願いします。

<桐始結花 きりはじめて はなをむすぶ 7月22日～27日>

大暑の初候は「桐始結花」です。実際に桐の木や花を見たことはありませんが、女の子が生まれたら桐を植えて、嫁に行くときに、その木で筆筒を作るという話は聞いたことがあります。それほど、生長が早い木だということです。

ところで、今幼稚園で一番生長が著しいのはヒマワリでしょうか。特に園庭のヒマワリは、プランターなのに大人の背丈を越えるほどに生長しました。西側のフェンス際に移植したヒマワリとは伸び具合が随分違います。タンポポのときはあまり感じませんでしたが、2か所では予想以上に日当たりには差があり、ヒマワリにとっては大きな影響があったようです。



アオムシが少しずつ大きくなる様子を見て、蛹に変身してからは、いつチョウになるかを楽しみに待ちます。羽化する瞬間を目撃することは滅多にできませんが、登園してみたらチョウになっていたという経験は多くの学級でありました。



狭い飼育ケースではかわいそうだからと、降園の際に保護者の皆さんにも紹介しながら、空に放すことになります。

<いよいよセミが姿を見せ始めました>

今年は自然に対する感覚が敏感になっているように感じます。セミが園庭で初めて鳴き始めたのは16日の午後でした。その後、保育中も木の上で鳴き声が聞こえると子どもたちも見上げて姿を探すようになりました。写真は、わくわく池の横のカイツカイブキの幹の地上2メートルほどのところに見つけた抜け殻です。そして、少し離れた地面には穴が…。夕方から夜にかけて、この穴から幼虫（通称:のこのこ）が這い出して、木によじ登って羽化したのでしょうか。



むしむし研究所がいくつも開所しており、模様や色を詳しく描いて図鑑を作る子もいます。実体験と想像が入り混じった、虫を主人公にしたお話のようなものもあり、微笑ましい絵本です。空に放った後の様子に大人以上に思いを寄せていて、幼児らしい姿と言えます。